

現代文ノートの作り方

ノートは芸術作品ではない。綺麗に書くことを目的としている人がたまにいる。しかし、ノートは学力向上のためにあるのだ。学力は発想と知識を記録し、活用できるようになると向上する。そのためにノートには記憶できないこと記録するのである。

皆さんの授業中での活動を観察していると、「どうして授業中にあんなに活発に議論しているのに、テストの点数に結びつかないんだろう?」とか、「みんなにすばらしいことを発表しているのに、どうしてそれが定着していないんだろう?」などと気づくことがあります。

発想はすばらしいが、知の集積がなされていないのでは?

一人で黙々と考え、いい線までいつているのに、単純なことに気づかないために袋小路に陥っている。周りからのちよっとした指摘でその袋小路から抜け出せる。すばらしい発想があるのに、後押しがないため自信が無くその意見を表明できない。なんて人もいます。

情報の共有化がなされることで、知が一段階レベルアップできるのでは?

それらをうまく解決するために、現代文では次のようなノートの作り方をを行います。そして定期的にノートを巡回、点検し、周りの人に見てもらったり、周りの人のノートを参考にしたりして、情報の共有化をし、知のレベルを上げていくことを目的とします。

フォーマット

(1) 縦書き、横書きは自由とする。(ここでは横書きで説明。)(2) ルーズリーフは不可。(3) 見開き2ページで1セット。

